



「一進一退の攻防」

8月28日に行われた川湯神社例大祭奉納相撲大会での1コマです。川湯保育園児・川湯小学校児童・川湯中学校生徒が取り組みを行い、この日のために練習してきた成果を発揮しました。土俵際にはたくさんの観客が集まり、大きな声援を送っていました。
(関連記事20ページ)

むかしむか史 (276)

てしかが歴史写真館¹⁵⁰



弟子屋囲碁史

囲碁は手談(しゅうだん)と言われ、礼に始まり、礼に終わるお互いの人格の向上を目指すゲームです。囲碁は中国を発祥の地とし、一説には19×19路で361路、1年を表す易筮(竹製の棒を用いて易占いをする)の一分派であり、天地をかたどる易学であるといわれています。

昭和戦後の時代、弟子屋の草分け的存在であった[㊦]旅館の土沼助吉氏が、その広い人脈を生かし一言声をかけると、近隣各地から90人ほどの囲碁愛好者が集まり、泊まりがけで大会を催していたと語り継がれています。そのほかとして天狗会、大鵬会など小さなサークルが活発に活動していました。1969(昭和44)年、弟子屋囲碁同好会が正式に発足し、歴代会長として、高橋定夫氏、長谷実氏、桐本富治氏、増田一布氏、事務局として大下精氏、佐々木民明氏、西郷満氏、指導者として金子竹一氏らの名前が挙げられています。

時代の流れとともに囲碁を愛好する人も年々少なくなってきましたが、こんなこともありました。標茶の愛好家の中に一人の高校生がいました。もともと彼は頭脳明晰(めいせき)であったこともありますが、囲碁に親しむことによりその才能が開花し、北海道大学に入学、同大学の囲碁クラブに所属したと聞いています。

若い小・中学生、高校生の皆さんもぜひ、囲碁に関心を持っていただきたいと切望しています。蛇足になりますが、アメリカの某大学では囲碁が必修科目になっているということです。

最近のイベントを紹介しますと、第43回町民囲碁大会が4月21日に摩周観光文化センターで行われました。また、第41回阿寒・弟子屋四地区親善囲碁大会(28人参加)が4月7日に同センターで行われ、地域間の交流と親睦を深めました。

てしかが郷土研究会(右近)

Public relations magazine

2013.10 No.710

てしかが

主な内容

- 姉妹都市日置市との30年……………②
- あなたの勇気が高齢者への虐待を防ぎます…⑧
- 老人ホームの移転新築に向けて……………⑨
- 第64回弟子屋町総合文化祭……………⑩
- 地方公共団体財政健全化法に係る健全化判断比率などの状況…⑪
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑫

てしかが 2013.10

毎月1回発行 発行/弟子屋町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ㊦482-2696
〒088-3292 弟子屋町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

12100 この広報紙には再生紙を使っています